

周囲の支え力になる フェンシングの千田さん



「ロンドン五輪で銀メダルが獲得できたのはチームワークが良かったから」と語る千田さん

市と市教育委員会、市体育協会では2月22日、スポーツ講演会を開きました。講師は気仙沼市出身でフェンシング



講演後、とめフェンシング協会の小学生と千田さんによるデモンストレーションで会場が盛り上がりしました

日本代表の千田健太選手。会場の中田農村環境改善センターには、市民ら約100人が集まりました。

「フェンシング競技を通じて学んだこと」と題して講演した千田さんは、震災後、無力感に襲われ引退を考えたものの、周囲の支えで競技を続けることを決意したことなどを紹介。ロンドンオリンピックで日本団体初の銀メダルを獲得したことについては「オリンピックで活躍することが、自分でできることだと思った」と語りました。

市の政策に生かして 東北大学大学院生が提言書

東北大学公共政策大学院（仙台市）の宍戸邦久教授（地方自治論）と学生が2月17日、市役所を訪れ、学生がまとめた「登米市における今後の政策展開のあり方」の報告書を布施孝尚市長に提出しました。同大学院の1年生8人が授業の一環で、昨年7月から本市を対象に現地調査や関係者

へのヒアリングなどを実施。登米市の課題と政策展開の方向性をまとめました。政策提言の柱は「登米市まちづくりポイントの導入」や「新高校から広める地域福祉促進」など五つ。提言書を受け取った布施市長は「まちづくりの参考にさせていただきます」と述べました。



本市への政策提言書を布施市長に提出した東北大学大学院生の皆さん

土砂災害防止の作文 加賀野小・湖君が優秀賞

国土交通省が平成26年度土砂災害防止月間行事の一環として、全国の小中学生を対象に募集した絵画・作文で、本市加賀野小（中田町）6年の湖綾君の作文が事務次官賞（優秀賞）を受賞しました。湖君は作文で、昨年8月に広島市で発生した土砂災害に触れ、被害者の心情と東日本

大震災で自身が体験したことを重ねました。そして、防災には日頃の備えが大切だと強調しました。土砂災害防止の絵画・作文募集には全国から4331点の作品が寄せられました。湖君の作品は、作文部門で最優秀賞1点に次ぐ、15点の優秀賞に選ばれました。



「震災時の体験を思い出しながら書きました」と語る湖君

元気サポーター養成 講座に31人の高校生参加

市では、思春期の心と体について正しい知識と情報を得、共に学ぶ高校生サポーターを養成するため「こころとからだ元気サポーター養成講座」を実施。迫保健センターで開かれた講座には、市内の高校生31人が参加しました。講座で参加者は、宮城ピアカウンセラーとして活動して

いる尚絅学園大学（名取市）の学生3人の指導を受けながら、伝え合うことの大切さを学びました。また、心理カウンセラーからは「人の権利」「生と性」について話がありました。講座終了後、参加者一人一人に受講証が手渡されました。



高校生たちはグループに分かれ、お互いにコミュニケーションを取りながら思春期の心と体の変化を学習

農業ビジネス、実践へ 起業家育成塾17人が修了

「ビジネスとしての農業」を学ぶ場として市が開講した「登米アグリビジネス起業家育成塾」。本年度2年目となる育成塾の修了式が2月4日、迫町のホテルで開かれました。本年度の修了生は17人。式には、修了生をはじめ市や金融機関、農業関係者ら約70人が出席しました。修了生を代

表して8人が今後のビジネスプランを発表。最優秀ビジネスプランには、鉢花の商品開発の計画を発表したわかば園芸の伊藤裕麻さん（迫町）が選ばれました。修了生には、塾長を務めた東北大学大学院農学研究科の伊藤房雄教授から修了証が手渡されました。

学校支援の課題探る ボランティア研修会を開催



東郷小（南方町）ボランティアの鹿野幸子さん（ステージ左から2人目）は、運動会に向けて「よさこい衣装」を手作りした様子を紹介しました

市教育委員会では、学校支援ボランティアの活動情報を共有し、課題や今後の方向性を探ろうと2月16日、ボラン

ティア研修会を実施しました。会場の中田農村環境改善センターには、ボランティア会員や学校教諭など約140人が参加しました。



現在の活動をどう発展させていかなどが話し合われたグループワーク

研修会の柱は実践発表とグループワーク。実践発表では、迫、米山、南方のボランティアと教諭が、各学校での登下校安全確保や図書整理、よさこい衣装づくりなど活動の様子を紹介しました。研修会後、参加者からは「違う町域の人たちと意見交換ができて勉強になりました」などの意見が寄せられました。



塾長の伊藤教授から修了証を手渡される修了生